

2008年8月26日

株式会社 富士経済  
 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町  
 2-5 F・Kビル  
 TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-0165  
 URL: <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>  
 URL: <https://www.fuji-keizai.co.jp/>  
 広報部 03-3664-5697

液晶パネルの表面保護、自動車のボディ塗装保護など

## 粘着テープ・フィルムの国内用途別5分野101品目の市場を調査

## 主要品目市場予測

2012年

光学用プロテクトフィルム	1,249億円	07年比69.5%増	同数量 83%増
太陽電池封止フィルム	265億円	07年比66%増	同数量 2.4倍
自動車用プロテクトフィルム	56億円	07年比12%増	同数量 10%増

総合マーケティングビジネスの(株)富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 阿部 界 03-3664-5811)は、08年5月から7月にかけて、エレクトロニクス、自動車など注目産業で使用される粘着テープ・フィルム市場を用途別に調査した。その結果を調査報告書「粘着テープ・フィルムの用途別市場展望 2008」にまとめた。

今回の調査は、粘着テープ・フィルムに焦点を絞り、特に分野別、用途別での動向を明らかにすることを目的とした。

我々の日常生活に浸透し欠くことのできない製品となっているセロハン粘着テープやビニールテープに代表される粘着テープ・フィルムは、エレクトロニクス、自動車、包装や建築、土木などあらゆる産業においても欠かせない製品となっている。

## &lt;調査結果の概要&gt;

07年の粘着テープ・フィルムの国内市場は、前年比4.1%増の約7,800億円であった。エレクトロニクス分野約1,640億円、自動車分野約210億円、建築・土木分野約290億円、包装分野約510億円、その他分野約5,160億円である。

エレクトロニクス分野では、液晶ディスプレイの需要拡大で、光学用プロテクトフィルム、液晶テレビ部品固定テープの需要が伸び、また、太陽電池封止フィルム、ダイアタッチフィルムが大きく伸びた。

12年に向けて金額ベースの年間の伸びは、エレクトロニクス分野が8%強と高く、自動車分野も自動車生産台数の増加により堅調に推移するが、建築・土木分野は、需要の低迷で低い伸びと予測する。

自動車分野では、どの品目も需要は全般的に堅調であるが、自動車部品のリサイクル処理の作業性を高める不織布両面テープなどで需要の伸びが大きくなっている。

建築・土木分野は、養生用、塗装マスク用、被覆鋼板用プロテクトフィルムなどの市場規模が大きい。しかし、この分野の伸びはどの品目も鈍化している。

包装分野では、OPP(プリプロピレン)テープとクラフト紙粘着テープが代表的で両者の市場規模は約3.7億平方メートルとほぼ同程度である。だが、国内では手で切れる作業性が好まれ、クラフト紙粘着テープが伸びつつある。

## &lt;今後の注目市場&gt;

## 光学用プロテクトフィルム

国内2007年	737億円	2012年予測	1,249億円	07年比69.5%増
---------	-------	---------	---------	------------

国内2007年	6億m <sup>2</sup>	2012年予測	11億m <sup>2</sup>	07年比83.3%増
---------	------------------	---------	-------------------	------------

液晶パネルやPDPパネルの表面に貼り付け、製造、加工、輸送などの工程で表面を保護するために使用される。パネルに貼り合せた後の接着力の経時変化がないこと、糊残りが少ないことのために、プロテクトフィルムを剥がさず外観検査を行うために光学特性が求められ、最終段階で剥がした時に帯電しないことなども求められる。

07年の国内市場は6億m<sup>2</sup>、好調な液晶需要に支えられ需要は急拡大した。この製品は日本のメーカーが強く、世界市場の86%を占める。需要の中心は、日本、韓国、中国、台湾などアジア地域である。世界的に液晶テレビへの代替が進んでおり、08年以降も年二桁で伸びると予測される。

## 異方導電性フィルム

国内2007年 100億円 2012年予測 97億円 07年比 3.0%減

厚み方向(縦方向)に導電し、面方向(横方向)では絶縁するフィルムである。この製品はフラットパネルディスプレイ(FPD)、特に液晶ディスプレイのICドライバ実装用に用いられる。液晶パネル(主にテレビ向け)の生産拡大に伴い、需要が拡大している。日本ではFPDの海外生産シフトが進んで需要もあまり伸びていないが、液晶ディスプレイの生産拠点多い中国や欧米からの生産シフトが進む東欧や中南米などで伸びている。中小型の液晶パネル向けは、テレビ向けを中心にゲーム、カーナビゲーション向けなどで需要が伸びているものの、第8世代以降の大型液晶パネル製造ラインでは技術の進化で使用量が減る。そのためテレビの生産台数の増加がこのフィルムの需要拡大を牽引する見通しである。ただし、需要拡大やLCDパネルの価格下落に伴って価格が大幅に下落していることから、販売金額は伸び悩むと予測される。

## 太陽電池封止フィルム

国内2007年 160億円 2012年予測 265億円 07年比 65.6%増

国内2007年 9千トン 2012年予測 22千トン 07年比 2.4倍

海外2007年 16千トン 2012年予測 51千トン 07年比 3.2倍

太陽電池封止フィルムは発電用シリコンセルをガラスとバックシートで挟む際に、ガラスとバックシートを接着するために用いる。エチレン・酢酸ビニル共重合樹脂(EVA)フィルムが用いられる。このフィルムは熱を加えると無色透明となり、また耐水性、耐UV性に優れているため屋外で使用される太陽電池の封止材に適している。

07年の世界の販売数量は25,000トン、販売金額は430億円、日本における販売数量は9,000トン、販売金額は160億円となった。

太陽電池メーカー大手にはシャープ(単結晶シリコン型・多結晶シリコン型)や三洋電機(単結晶シリコン型)京セラ(多結晶シリコン型)など日系メーカーが多く、これらのメーカーは日本で太陽電池の製造を行っている。そのため、太陽電池封止フィルムの販売量も日本が多く、全体の36%を占めている(世界における太陽電池の生産量は、日本が約40%、ヨーロッパが約27%、日本を除くアジアが約24%、アメリカが約9%となっている)。近年、太陽電池の需要が急速に拡大しており、生産量も年20~30%増えていることから、太陽電池封止フィルムも年率20%以上の大幅な需要拡大が見込まれる。

今後このフィルムの需給逼迫や原油価格高騰に伴う原材料費の高騰が材料選定に影響し、需要拡大の足を引っ張ることも考えられ、また太陽電池封止フィルムを用いないモジュールの開発も懸念材料となる。しかし、現在主流のシリコン結晶型太陽電池は年率20%以上の需要拡大が継続する見通しで、それに合わせて封止フィルムも同様に増産が続き、需要も順調に拡大していく。

## ダイアタッチフィルム

国内2007年 31億円 2012年予測 62億円 07年比2.0倍

国内2007年 25万m<sup>2</sup> 2012年予測 56万m<sup>2</sup> 07年比2.3倍

海外2007年 95万m<sup>2</sup> 2012年予測 234万m<sup>2</sup> 07年比2.5倍

主にチップ積層型MCP(Multi Chip Package)などのマウンティング、ダイボンディング工程においてペアチップを固定するために用いられる。近年は、ダイアタッチ機能と共にダイシングの際にウエハを固定するダイシングテープの機能も備えた製品が多い。ここではDAF(Die Attach Film)、DDF(Dicing Die attach Film)共に対象とする。

この製品は主にチップ積層型パッケージのボンディングに用いられており、特にNAND型フラッシュメモリ向けの需要が主体である。07年は北京オリンピックを前にした半導体の生産拡大や新興国における旺盛な半導体需要によって、DAFも大幅に需要が伸びている。08年は前年の反動により伸び率が鈍化するものの、今後もNAND型フラッシュメモリの生産拡大に連動して大幅に増加すると見込まれる。NAND型フラッシュメモリの動向については、メモリーカードやUSBメモリ、iPodに代表されるポータブルオーディオプレイヤー、携帯電話機の内蔵メモリ向けなどの需要拡大に加えて、SSD(Solid State Drive)のHDD代替進展が需要拡大のポイントとなる。現在、積層型のMCPは3段~5段が主流である。今後、さらに高積層化が進めば、この製品の使用量が増え需要が更に拡大する見通しである。ただし、高積層化ではなくチップの高集積化が進めば、この製品の需要拡大に繋がらないと見込まれる。

世界市場の先行メーカーで、多くの関連特許を持つ日立化成工業が約66%のシェアを占め、トップメーカーとなっている。主力用途であるNAND型フラッシュメモリの生産拡大に連動した需要が見込まれる。メモリの大容量化に伴い、MCPなどにおいてチップの多段化が進むことも当該市場の成長要因となる。ただしチップの高集積化やダイボンディングペーストとの競合が挙げられる。

#### 自動車用プロテクトフィルム

国内2007年 50億円 2012年予測 56億円 07年比12.0%増

国内2007年 6,000万m<sup>2</sup> 2012年予測 6,620万m<sup>2</sup> 07年比10.3%増

自動車の塗装面を砂塵、鉄粉、酸性雨、鳥糞、などから保護するためのフィルムである。自動車にこのフィルムが採用される以前は油性ガードワックスが塗布され、除去には灯油を溶剤として使用したが、環境規制により使用が規制されるようになり、剥離が容易なこのフィルムが使用され始めた。紫外線遮断のために白色ポリオレフィンフィルムが使用される。

現在、日本の各メーカーが使用しているが、GMやフォードなどの海外自動車メーカーでは、あまり採用されていない。材料価格が上昇する中で、低価格要請や耐候性などの要求レベルが高く、フィルムメーカーの収益は厳しくなる見通しである。自動車の国内生産の増加、輸出の増加に伴い、需要は安定的に推移する。

以上

#### 調査の概要

##### <調査対象>

1. 用途別 (1)エレクトロニクス分野38品目 (2)自動車分野10品目 (3)建築、土木分野24品目 (4)包装分野25品目 (5)その他4品目 計101品目
2. ベース材別 24品目

<調査方法> 富士経済専門調査員による対象企業ならびに関連企業・団体への直接面接を基本に各種統計資料による文献調査

<調査期間> 2008年5月～7月

資料タイトル:「粘着テープ・フィルムの用途別市場展望 2008」

体 裁 : A4判 295頁

価 格 : 100,000円(税込み105,000円)

セット価格(CD-ROM付): 110,000円(税込み115,500円)

調査・編集 : 富士経済 東京マーケティング本部 第3事業部

TEL:03-3664-5821 (代) FAX:03-3661-9514

発 行 所 : 株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル

TEL03-3664-5811 (代) FAX 03-3661-0165 e-mail:info@fuj-keizai.co.jp

この情報はホームページでもご覧いただけます。URL:<http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>

URL:<https://www.fuji-keizai.co.jp/>